

ひぐち秀敏の県議会だより

第25号

発行責任者
樋口 秀敏
事務所
南魚沼市塩沢1412-2
阿部アパート101号室
電話・FAX
025-782-5233
E-mail
h-higuchi@kta.biglobe.ne.jp



にじいろ

6月定例会

国へ回答 県民意思確認後

原発の再稼働判断で知事明言

新潟県議会6月定例会が、6月17日から7月7日までの日程で開催されました。柏崎刈羽原発の再稼働を判断する時期について、花角知事は「県民の意思を確認した後、国からの理解要請へ回答する」と明言し、国に再稼働の判断を回答する前に県民の意思を確認する考えを明らかにしました。エネルギー価格・物価高騰の影響を受けている生活者及び事業者等の支援に必要な経費として8億9千万円の補正予算を可決しました。

代表質問、一般質問で 細県では辺野古基地の埋め立て申請を知事が承認した後、県民投票と県知事選挙で埋め立て反対の民意が示されましたが、国は埋め立てを続けていることから、県民意思の反映には国への回答前に確認が行われなければならない。花角知事は県民の意思を確認する方法について、「信を問う方法が最も明確」としながらも、「議会での

議論や住民による直接投票等、様々な手法が考えられる」として、県議会での意思決定も否定していません。県議会での意思決定は、県民投票で求めた「自らの暮らしと命、人権に関わり得る柏崎刈羽原発の再稼働に関する意思表明の場」にはなりません。引き続き、県民が直接意思表明できる場を求めていきます。

代表質問で柏崎刈羽原発再稼働の判断などについて花角知事に質問する。ひぐち県議 6月19日



新潟県の最低賃金

1,050円

2025年10月2日から

米の安定供給へ意見書

自民党は非現実的と反対



天水田が多く、漏水被害が出ている上越市安塚区坊金地区を視察した＝8月6日

未来にいがたは「米の安定供給と食料自給率向上を」に、①中山間地を含めた基盤整備と高温耐性品種への改良の推進、②小規模農家の所得確保を含めた稲作農家の所得確保政策の構築、③生産・流通コストの向上を踏まえた価格形成の仕組み構築と資材等の価格高騰対策の継続実施、④農林水産予算の増額を求めるものです。米不足による米価高騰が続き、

8月6日上越市安塚区坊金地区を視察した。田の水田を視察しました。田はひび割れ、枯れている稲もありました。米が安定して供給され、小規模農家も営農を継続できる施策が求められています。

は同趣旨の意見書を提出し、全会一致で可決されました。ひぐち議員は監査委員に選任任期は7月8日からとされ、7月7日に花角知事から辞令が交付されました。常任委員会、特別委員会委員の選任も行われ、ひぐち委員は右に記載の委員会となりました。

高温と漏水により今年の収量減と品質低下が心配される中ですが、自民党と公明党の反対で否決されました。自民党の反対理由は、中山間地を基盤整備等による規模拡大の対象とすべきかは疑問、小規模農家を含めた稲作農家の所得確保も現実的ではない、というものです。政府がコメの増産に舵を切る中、中山間地と小規模農家こそ国を挙げて支えていかなければ、増産は実現できません。自民党の対応は、これまでの中山間地切り捨て、大規模化一辺倒の自民党農政そのものです。

ひぐち議員の所属委員会等

常任委員会

総務文教委員会【再】

知事政策局、総務部、人事委員会、教育委員会などの所管事項を調査

特別委員会

人口減少問題対策特別委員会【再】

監査委員【新】

※財務に関する事務が適正に、その他の事務・事業が効率的、経済的に運営されているかなど、独立した立場で監査

会派政調会長





水不足で、ひび割れた田と枯れ始めた稲。コメの増産には、中山間地域の小規模農家を含めた支援が必要だ＝8月6日、上越市安塚区

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働判断やコメ政策について質問しました。コメ不足について、現行制度で供給量等を十分に把握できなかったことは認めましたが、主食用米の増産や農家支援に積極的姿勢は示しませんでした。

コメ政策 主食用米増産には消極的

ひぐち県議 代表質問の概要

主食用米高騰

酒米農家・酒蔵支援を検討

補 昨年夏からコメの品薄状態と米価高騰が続いている。減反政策で生産量を削減してきたことが影響したと考えられるが、政府のコメ政策に対する所見は。

知事 需要に応じた生産を行うという方向性は適切だったと認識している。急激な需給環境の変化に、現行の取組では需給バランスを保つために必要な供給量等を十分に見通せなかったものと受け止めている。

補 日本の食料自給率向上や食料安全保障に資するためにも、主食用米の生産拡大に転換すべきだ。

知事 担い手が将来展望を持つて持続可能な水田農業を展開できるよう、非主食用米等の生産にインセン

ティブ(動機付け)が働く仕組みの構築について農林水産大臣に要望した。

補 令和3年産と4年産の備蓄米を随意契約で安価に売り渡した結果、「随契米」は2千円程度で販売されている。他のコメの販売価格と稲作農家の経営にどのような影響を与えるか。

知事 流通の滞りが解消され、銘柄米を含めた米価の上昇を抑える効果が現れ始めた。稲作農家の多くは、令和6年産米の販売を既に終えていることから、現時点では農業経営に影響は及

んでいない。

補 全ての稲作農家が安定した収入を得られるより、所得補償制度の導入を国に求めるとともに、制度の対象とならない農家がある場合には県独自で補償を行うべきだ。

知事 国の責務として、中長期的な農業経営のセーフティーネットづくりを進めていくものと認識している。

補 主食用米の価格高騰に伴い、加工用米等から主食用米に作付け転換している農家がある。酒米の確保も難しくなり、伝統的酒づ

くりを行っている酒蔵は厳しい状況に置かれている。酒米生産農家と酒蔵を支える施策を行うべきだ。〔表1に令和7年産の作付意向〕

知事 主食用米価格の高止まりが継続すれば、主食用米の生産意欲が一層高まり、令和8年産以降の酒造好適米の生産減少が懸念される。県では、酒造好適米などの生産にインセンティブが働く仕組みの構築を国に要望した。農業と酒造業が共に発展することが重要であることから、酒造好適米の安定確保と、県内での持続可能な酒造りを後押しするため、米価の動向も注視しながら、酒米農家と酒蔵を支える施策を検討していく。

令和7年産の水田における作付意向(令和7年6月末時点・農林水産省公表値)

(単位:千ha)

	主食用米	戦略作物					WCS用 稲	麦	大豆	備蓄米
		加工用米	新市場開拓用米	米粉用米	飼料用米					
R7年産	108.7	6.6	1.5	0.7	1.4	0.6	0.2	3.4	—	
R6年産	101.4	6.8	1.8	1.4	2.9	0.7	0.2	3.9	4.7	
前年差	+7.3	▲0.2	▲0.3	▲0.7	▲1.5	▲0.1	+0	▲0.5	▲4.7	

※ 備蓄米は、7年産米の入札を当面中止。6年産の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

再稼働の県民意見 首長意見・公聴会で把握

補 14万3196人が署名した県民投票案は、賛成又は反対の二者択一で行うこととしている。署名の意義を重く受け止めるのであれば、県民の意思を見極める方法は、二者択一以外にないか。

知事 賛成又は反対の二者択一では、県民の多様な意見を把握できないという課題がある。

補 首長との意見交換

や公聴会で、二者択一での県民投票を求めた14万3198人を含めた県民の意思を見極めることができるか。

知事 市町村長との意見交換は各地域の思いや忌憚のない意見を聞ける機会であり、公聴会は様々な分野・年代の方々に集まっていたり、多様な意見を把握できる有効な方法だ。

補 湯沢町長は意見交換方法と考えている。

補 懇談会は完全公開で行うべきだ。

知事 首長同士の忌憚のない率直な意見交換を行うため、今後とも非公開で行っていく。

補 公述人選定委員は、どのような考え方で選定したか。選定委員は非公開だが、恣意的にならずに公平・公正な選定をどう担保するか。

知事 公平・公正な立場から公述人を選定するとともに

代表質問

魚沼基幹病院は、開院から10年が経過した。魚沼地域の中核病院としての医療提供と経営の安定化が求められる



【補】 日本病院協会など6団体が公表した2024年度診療報酬改定後の病院経営状況によれば、69%の病

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 日本病院協会など6団体が公表した2024年度診療報酬改定後の病院経営状況によれば、69%の病

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

経営職等活躍へ体制整備

県立病院

【補】 日本病院協会など6団体が公表した2024年度診療報酬改定後の病院経営状況によれば、69%の病

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 日本病院協会など6団体が公表した2024年度診療報酬改定後の病院経営状況によれば、69%の病

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

計画的積立で設備管理

企業局電気事業

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

企業局長

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

【補】 県民意識調査は、選

県立病院の内部留保資金枯渇回避に向けた取組み状況				
※稼働率はR6年度				
取組内容	施設	病床数(床)	稼働率(予定)	年度改善目標
機能・規模の適正化(病床廃止等)	中央	530床(78.0%)	R7年度一	26億円程度
	新病院	467床(51.3%)		
	坂町	120床(100%)	R7年度一	
	十日町	250床(78.4%)	R7年度一	
早期の安定運営	松代	39床(0%)	R8年度一	20億円程度
	新病院	55床(57.4%)		
	妙高	47床(70.4%)	R7年度一	
	津川	42床(73.0%)	R7年度一	
専門	リウマチ	100床(0%)	R7年度一	
	がんセンター	404床(367%)	R7年度一	
	精神	189床(65.5%)	R7年度一	
	西田	110床(68.8%)	R6年度一	
合計	13施設+12施設	2,433床+122床(75.1%)		45億円程度

